

忘れていませんか?? 肺炎球菌予防接種

今年度下記の年齢に該当される方は、肺炎球菌予防接種の料金助成の対象となっております。対象となる方には、すでに昨年4月以降に個別で案内をお送りしています。

助成期間は、令和3年3月31日までです。ご希望の方は早めの接種をお勧めします。

●対象者 ※ただし、これまでにこの予防接種をしたことのある方は対象外となります。

①令和2年度に各年齢となる方
65歳：昭和30年4月2日～昭和31年4月1日生
70歳：昭和25年4月2日～昭和26年4月1日生
75歳：昭和20年4月2日～昭和21年4月1日生
80歳：昭和15年4月2日～昭和16年4月1日生
85歳：昭和10年4月2日～昭和11年4月1日生
90歳：昭和5年4月2日～昭和6年4月1日生
95歳：大正14年4月2日～大正15年4月1日生
100歳：大正9年4月2日～大正10年4月1日生
②60歳以上65歳未満の方で、心臓・腎臓・肺や気管支及びヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能で身障手帳1級程度の障害のある方

自己負担額

○津別・美幌町内の病院
3,630円

○北見市内の病院
4,750円

※生活保護の方は無料です。
役場福祉担当に証明書の発行をお申し出ください。



- 津別・美幌の病院の場合：病院へ予約し、送付した「予防接種予診票」をご使用ください。
- 北見市の病院の場合：事前に保健師へお電話ください。「北見専用問診票」をお渡しします。

問い合わせ先 役場 保健福祉課 健康推進係 保健師 ☎76-2151(内線231、332)

子どもたちの感染症予防対策に
商工会青年部から町内の小・中学校
に消毒用品を寄贈

12月18日、津別町商工会青年部から教育委員会にエタノールと自動消毒液噴霧器の寄贈がありました。
商工会青年部長の藤田浩さんから「児童・生徒たちの感染症対策に役立ててほしいです」と宮管教育長に手渡しました。教育長は「ありがとうございます。子どもたちは頂いたエタノールで感染症対策を徹底してほしいと思います」と、お礼を述べました。
寄贈されたエタノール等は小・中学校へそれぞれ贈られました。



▶(左から) 宮管教育長と藤田青年部長

北海道コンサドーレ札幌が道内の
新成人をホームゲームに招待

新型コロナウイルス感染症の影響により、各地で成人式が中止・延期されていることを受け、サッカーJリーグ・北海道コンサドーレ札幌では、新成人の皆様をお祝いするため、道内の新成人全員を対象に、ホームゲーム無料招待を実施します。

対象者
平成12年4月2日～平成13年4月1日に生まれた方
※出席予定の成人式の中止・延期にかかわらず、前記期間に生まれた方全ての方が対象です。
※現在道外にお住まいの方も対象となります。

内容

2021シーズンコンサドーレホームゲーム無料招待(1人1回限り)
申込方法
専用申込フォームから申込
(<https://forms.gle/PLnUG9BQ1QCacIFJB6>)
または下のQRコード
からログイン↓



申込締切 令和3年2月28日(日)
◆宮澤選手(主将・伊達市出身、濱選手(札幌市出身)から新成人へのお祝いメッセージを道HPに掲載しています。
(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skk/sports/consadole_110.htm)

林地未利用材を有効利用！ 愛林のまち が取り組むバイオマスエネルギー特集

現在インターネットで公開中！ 町のHPをご覧ください

「愛林のまち」津別町のバイオマスエネルギー「木質ペレット」をご存知でしょうか？ 林地未利用材や木材加工の際に発生する木くずを暖房燃料に利用し、町内の施設・家庭を暖めているペレットストーブは、町民に嬉しい購入助成制度も！ 町ならではの特色を活かしエネルギーの地産地消を目指す取り組みを追いました。ぜひご覧ください！



この番組は、津別町の今を映像で定期的に発信(月1回)することで、町民の町づくりへの参加促進、移住・定住の促進、ふるさと納税の拡大を図り、町づくりの記録を残すことで、10年後20年後の町民への財産とします。完成した映像は、町のWebサイトや道東テレビ、YouTube等で公開いたします。また、さんさん館、津別病院、道の駅あいおいに設置された「デジタルサイネージ(映像看板)」でも視聴することができます。※タウンニュースつべつは、ふるさと納税の寄附金により制作しています。

《取材希望企業・飲食店・生産者募集! 詳しくは役場住民企画課まで》

問い合わせ先 住民企画課 企画係 ☎76-2151(内線243)

職員がレポーターに挑戦

「正直申し上げて…鬼教官の眼鏡の奥がキラリと光った。「あなたに路上はムリです」教習所へ通って、これ以上の引導の渡され方があるだろうか。にもかかわらず、現在私は路上の、しかも北海道の凍結路面を震えながら運転している。「来年のことを言う」と鬼が笑う」という諺がある。

先のどうなるか分からないことを話すと、怖い鬼さえおかしうて笑いだすという意味らしい。あの教官は、きつと鬼に笑われたにちがいない。

さて、私も一本鬼に笑われてしまった。主人の夢の工房を建てるべく、木立に囲まれた土地を購入したら、一昼夜にして木が全て伐られてしまった。借景の野望無念なり。

のどかな自然の風景が明日も続く高をくくつていた。伐採した方も、人口が減る集落に新たな工房が建つとは予想もしまい。せつかくソーラーの日当りをよくしたのに。鬼に笑われるのはお互い様だ。

全く想像さえしなかったことも次々に起きる。協力隊として地元の方を取材し、カメラの向こうにこんなに素敵な生き方と笑顔の数々に出会うこと。地元の人にとつての当たり前が私には驚きの連続だった。この感動を去年の今頃語れただろうか。あと少しで豆に打たれて退散してしまう鬼たちだ。語れる夢ぐらい存分に語り、大いに笑わせてあげるといい。

鬼を笑わせる

小塚 翔子

役場企画係とまちづくり会社の窓際勤務。窓から飛び出し、カメラ片手に取材班として活動中。